

Q 子育て支援策

A 今後も、事務・事業の見直しを行いながら、子育て支援施策の充実を図っていく。(三村町長・清代民生部長)



沖田ゆかり議員

「子育て応援メール」は、「予防接種お知らせメール」は、タイムリーな情報を随時届けることができるといふ点では有効な媒体の一つである。しかし、個々に合わせたスケジュール管理がどの程度可能なか。どのような情報発信がより効果的なか。また、増加する事務量や開始するための配信システム導入の費用対効果等、検討すべき点も多いことから、今後、先進事例も参考に研究していきたい。

不慣れな子育て生活の不安や負担の軽減を図るための「子育て応援メール」や、複雑化する乳幼児の定期予防接種のスケジュールを保護者自身が管理することへの支援策として、「予防接種お知らせメール」の配信サービスを導入することができないか。



藤本哲智議員

Q 町内行事(町内一斉清掃)

A 住民の皆さんの負担軽減等に取り組んでいきたい。(清代民生部長)

Q 保育環境の充実について

A 発達障害児の保育の受け入れ体制の整備、保育士等の人材確保と処遇改善に取り組んでいく。(三村町長・清代民生部長)

沖田ゆかり議員

兄弟姉妹の入所については、できるだけ同じ保育所に入所できるよう配慮している。

兄弟で保育所に入所する場合の対応は。

国が定めた加算額を補助金として交付する。

保育士の処遇改善に取り組む保育所への財政支援措置は。

町内の保育園合わせて22人。(5月1日時点) 本町は、障害手帳等の有無にかかわらず加配が必要と認められる児童がいる保育所には、障害児1人から補助金の加算を行う。

町内保育所の発達障害児の人数とそれに対する保育士の加配措置は。

昨年9月に議員から提言を受け、公衆衛生推進協議会の役員会や自治会長の会議等でも協議いただいた。今年度の公衆衛生推進協議会の総会でも、会長から川に入ることに付いて問題提起されたが、結論としては、河川を一斉清掃の対象から外すことや川に入る方の年齢制限を設けず、参加できる方が、参加できる範囲で、安全に清掃を行っていくとの申し合わせがなされた。今年度も9月7日に一斉清掃の実施を予定しているが、清掃場所等、自治会の中でも、協議をされるよう、引き続き働きかけをしていき、住民の皆さんの負担軽減等に取り組んでいきたいと考えている。

高齢化が進む町内で一斉清掃は負担になってきている。特に河川に入っている草刈りは重労働である。地域によって清掃方法が違うことに違和感を覚える町民が沢山いる。一斉清掃の基準を作り、誰もが参加できる町内行事としての位置づけを要望する。



Q 父子健康手帳の活用 山野千佳子議員

A 父親が積極的に育児参加できるよう効果的な事業を進めていきたい。(清代民政部長)

父親が積極的に育児参加できるように効果的な事業を進めていきたい。

今後の予定は。

近隣では、東広島市、海田町でも同様の取り組みを行っている。

他の市町での活用状況は。

両親学級に参加後のアンケートでは、「妊婦の大変さが分かった」、「夫婦で話すよい機会となった。」等の感想があった。

育児中の父親・母親にアンケートを取ったことがあるのか。

平成22年度から両親学級で配付を始め、平成24年度延べ26名、平成25年度は延べ22名に配付し、活用している。

何時頃から始め、年間の利用状況は。

Q 障害者、障害養護者、保護者の町の支援

A 住み慣れた地域で安心して生活するためには、必要であると認識している。(清代民生部長)



片川学議員

本町では、各種サービスの利用者が年々増加しており、特に就労支援や障害児のデイサービス等の在宅での利用者が増加している。ご質問のケアホームなどの入所施設サービスの利用者は、ほぼ横ばいで推移しており、これは、町内には入所の施設はなく、必要時に入所できない現状もあるのではと考えている。入所施設の整備は、障害者やその家族の不安を払拭し、住み慣れた地域で安心して生活するためには、必要であると認識している。このため、今後、法人から施設整備の協議があれば検討していきたいと考えている。

町内障害者、障害児童、養護者も平等に年齢を重ねて行く中、現体制の中では、日々、年々不安を重ねておられるように見える。町として今後の対策(ケアホーム等)支援の考え方を伺いたい。